

地域づくり活動の行動計画

静岡市立静岡病院

2025年度
地域緩和ケア連携調整員研修（アドバンスコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名 (職種)
地方独立行政法人 静岡市立静岡病院	岩井 一也（医師）
	望月 公次郎（事務）
	増田 友美（看護師）
	足立 敬幸（社会福祉士）
	鍵山 周吾（社会福祉士）
	鍋田 泉（看護師）

① 選定した地域の課題

- ・これまで連携しているクリニックや訪問看護に関する情報が院内の調整員の経験に任せられている
- ・緩和ケア連携等に関して、紹介先のクリニックや訪問看護師などが、何に困っているのかなどの状況を把握できていない

② どんな地域を目指すのか

- ・地域で治療についてオープンな情報共有を目指す
- ・病院と在宅療養を担っている医師や看護師、ケアマネジャー、包括支援センター職員などと、風通しの良い・顔の見える関係性を築く

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- ・ 日頃より連携している地域の多職種から意見を聞く場をつくる
- ・ クリニック、訪問看護師、ケアマネジャー等、地域の情報を院内で共有する
- ・ 地域の緩和ケアに関する医療・処置情報の整理

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

1. 地域のリソースの緩和ケアに関する医療・ケア情報の整理

👉直ちに取り組み、今年度中にMAP作成を目標

【目的】 地域での連携に関する情報整理

【内容】

- ・相談員等が経験から得ている情報を集める
- ・困ったことについても書き留めていく
- ・行動計画2で実施したカンファレンスでの情報も加える
- ・訪問可能なエリアの明確化、施設の医療・ケア体制の可視化
- ・作成したMAPは院内で共有する

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

2. 症例の振り返りカンファレンス

👉 2026年1月から開始、年6回実施を目標

【目的】 症例の振り返りによる情報共有、施設間での関係性づくり

【内容】

- ・ 関係がうまくいっている施設間での連携症例から実施
- ・ 事例の振り返りと共に地域の人からの要望を聞く
- ・ 顔の見える関係づくり

【参加者】 症例に関わった人と興味のある職種に参加を促す

院内多職種（主治医 病棟看護師 薬剤師 相談員他）

院外多職種（在宅医 訪問看護師 ケアマネジャー ヘルパー他）

※がん相談支援センターや退院支援担当者が窓口となり実施

※職能団体にも声をかける